確かな学力の向上をめざして【５月】

■長期欠席、不登校の解決・改善に向けて

中部地区では、長期欠席、不登校の児童生徒の状況が重大な課題となっています。昨年度は、２８年度に比べ、小学校の出現率は減少しましたが、中学校の出現率は増加しました。各学校で取り組まれている長期欠席、不登校の解決、未然防止に向けての様々な取組を、さらに充実させることが必要です。

【過去３年間の欠席の状況】(表中の数字は人数、%は出現率)

小学校	長欠(30 日以上)	うち不登校	7日以上欠席率	中学校	長欠(30 日以上)	うち不登校	7日以上欠席率
H27	52（0.93%）	27（0.49%）	804（14.48%）	H27	125（4.51%）	102（3.69%）	356（12.87%）
H28	82（1.49%）	40（0.73%）	739（13.46%）	H28	125（4.54%）	105（3.81%）	385（13.97%）
H29	78（1.44%）	36（0.66%）	694（12.80%）	H29	143（5.32%）	115（4.28%）	386（14.38%）

【不登校（３０日以上欠席）児童生徒の変容の様子】

小学校

継続的に登校する	A　教室に入り通常の学習ができる	3
	B　相談室・保健室登校ができる	3
断続的に登校する	C　教室に入り通常の学習ができる	7
	D　相談室・保健室登校ができる	1
登校にチャレンジする	E　教室に入り通常の学習ができる	1
	F　相談室・保健室登校ができる	0
G　A～Fほどではないが、変容が見られる		11
H　再登校のきざしが見られない		10
計		36

15人

中学校

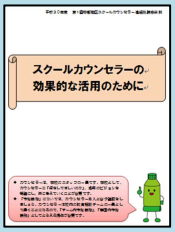
継続的に登校する	A　教室に入り通常の学習ができる	19
	B　相談室・保健室登校ができる	13
断続的に登校する	C　教室に入り通常の学習ができる	13
	D　相談室・保健室登校ができる	16
登校にチャレンジする	E　教室に入り通常の学習ができる	3
	F　相談室・保健室登校ができる	8
G　A～Fほどではないが、変容が見られる		26
H　再登校のきざしが見られない		17
計		115

72 人

不登校の改善に向けての取組　～相談室・保健室登校の重要性から～

毎月集計しているデータの『変容の様子』を見ると、各学校での取組の成果を見ることができます。赤枠内の数字は、何らかの形で学校に登校している児童生徒の数を示しています。これを見ると、『相談室・保健室』が学校の中で重要な役割を果たしていることが分かります。不登校の改善に向けて、管理職のリーダーシップのもと、教育相談担当が中心となり、学級担任や学年団に加え、養護教諭や相談員、スクールカウンセラー等がそれぞれの専門性を発揮しながら、学校全体がひとつのチームとして機能するような体制作りが大切です。

ポイント！　スクールカウンセラーと共に、５・６月の教育相談体制を整えましょう！



環境整備については、『スクールカウンセラーの効果的な活用のために』を参考にしてください。（第1回スクールカウンセラー連絡協議会で配布しています）

５・６月は、それまでの緊張や頑張りの疲れから、児童生徒の様子に変化が出やすい時期です。今のうちに準備を整え、細やかな対応ができるようにしておくことが重要です。教育相談にスクールカウンセラーを十分活用できるように、カウンセリングの持ち方や環境整備について一緒に考え、打ち合わせを行っておきましょう。

中部教育局